

編 集 後 記

ここ数年北極海の海水面積の減少が話題となっている。その減少は気候モデルによる予測をはるかに超えている。海水は海の表面に浮いているので、その生成や分布は大気側と海洋側の両方の影響を受ける。モデルでは何か重要なプロセスが考慮されていないことも考えられる。1970年代にはアルベードフィードバックが提唱され、雪氷域の拡大は更なる雪氷域の拡大を促すと言われていた。いま、それを検証するいい機会かもしれない。また、大気側の変化は海のものに限定されず、陸上にも影響を与える。シベリアのヤクーツク周辺では、北極海の海水面積の減少にほとんど同機して、地温の上昇、土壤水分の増加、カラマツの枯死、アラスの水域の増大、12月の降雨や河川流出の増加などが報告されている。これらの現象がどのようにリンクされているのかを解明することが望まれる。

話が変わるが、私は大相撲を見ることが好きである。先日は横綱白鵬の連勝記録が63でストップした。4場所以上も負けたことがなかったのだから、「これが負けか」という彼の感想もなんとなく理解できる。本場所は昇進試験のようなものだが、負け数が勝ち数より多いと降格になるところが昇進試験とは異なる。横綱は負け越しが許されないので引退となる。本場所(試験)が終わって1.5ヶ月すると次の本場所(試験)が始まるから、厳しい世界である。我が「雪氷」も2ヶ月に1回発行されるので大変である。私は論文を担当しているのでそうでもないが、編集委員長の気苦労は計り知れないものがあると思われる。北極海の海水面積ではないが、投稿論文数の減少が顕著であるので、会員皆様さんのご協力をお願いしたい。

(兒玉裕二)